

第6回 小平市公共施設マネジメント推進委員会（会議要旨）

日 時	令和4年10月27日（木） 午後2時00分～午後3時50分
場 所	WEB会議（ZOOM）
出席者	推進委員 5人（木村俊介委員長、齋藤啓子副委員長、風間芳夫委員、金子通子委員、中島あゆみ委員） 出席課 9人（相澤財務担当部長、瀨本公共施設マネジメント課長、同伊藤課長補佐、同横山課長補佐、同師岡担当係長、同比留間主任、市川教育総務課長、同金子課長補佐、同足助担当係長）
欠席者	推進委員 2人（倉斗綾子委員、讃岐亮委員）
傍聴者	なし
配布資料	資料 1-1 小平第九小学校校舎及び体育館、小平第十四小学校校舎及び体育館、小平第十五小学校校舎及び体育館に関する更新等について（案） 資料 1-2 主な通学区域における5歳から14歳までの人口推計 資料 1-3 学校の「更新等の適否の判断」要素 資料 2-1 （仮称）小川にぎわい広場に係るワークショップについて 資料 2-2 （仮称）小川にぎわい広場に係るワークショップ配布資料 資料 3 公共施設マネジメントニュース 令和4年9月号 参考資料 （仮称）小川にぎわい広場に関するアンケート

1 開会

2 令和4年度 更新等の適否の判断対象施設の検討状況について

資料1の概要を説明した。

委員長：第九小学校については、将来的に第二小学校及び学園東小学校を含めた3校を2校に統合する予定ということであるが、統合後の敷地がどこになるかなどを具体的に公表できるのは、いつ頃になるか。また、2029年から20年程度継続して使用することとし、それまでの間は防水や外壁などの改修を検討するとあるが、児童を通わせる保護者からすると、安全安心な状況で校舎を維持管理していくことが本当にできるのかという点が気になるのではないかと思う。予防保全について具体的に考えているのであれば、もう少し踏み込んだ記載をした方が、保護者に安心感を与えられるのではないか。

教育総務課：第二小学校、第九小学校、学園東小学校の統合時期の想定は2050年である。現在先行している第十一小学校や第十三小学校の更新の事例を見ても、基本計画から設計、そして最終的な竣工までやはり10年程度の期間はかかるだろうと想定される。特に統合となると単独の建替えとは異なり、より多くの議論を要することから、年数的にはさらに時間を長めにとりながら検討をしていくことが必要となると考えられるため、遅くとも2040年頃までには公表していくことになるのではないかと考えている。

予防保全については、劣化診断によるコンクリートの状態が良いという結果が出ていても、やはりそれなりの経年劣化はあるので、できるだけ早期に防水や外壁の工事による対応を図りたいと考えているが、予算的なところもあるのでこういった表現にしている。

委員：第十四小学校については、校舎と体育館の両方を更新するということか。

教育総務課：その予定である。

委員：第十四小学校については、学童クラブについても複合化を検討する予定ということであるが、児童数の増減と学童クラブの利用者の増減は必ずしも一致しないと思うが、学童クラブの利用者数の予測はどうなっているか。

公共施設マネジメント課：主管課である子育て支援課の方で一定の予測はしているところである。学童クラブのニーズについては、児童数の増減に比例するものではなく、むしろ保護者の働き方であるとか、ライフスタイルによって変化をするものと捉えているので、児童数が減ったことにあわせて学童クラブをコンパクトにするということではなく、学童クラブのニーズを見越した対応をしていきたいと考えている。

委員：学童クラブの面積等の状況調査はされていて、複合化の検討に役立つような資料となっているのか。

公共施設マネジメント課：主管課では捉えているものと認識している。児童数 1 人あたりの面積基準もあるので、施設を建て替える際にはそういったことを踏まえて進めていくものと考えている。

委員：第十四小学校の更新に関しては、資料に記載のある小川東町地域センターや、仲町公民館・図書館を複合化して同じ敷地に建設するというイメージか。

公共施設マネジメント課：小学校の複合化に関しては、その近くにある既存の公共施設を複合化するという考え方ではなく、（仮称）地区交流センターという、地域の方が集まるような場所を併設するというのを市としては方針として示している。そして複合化のタイミングに合わせて、既存の通学区域内のコミュニティ施設である地域センター、公民館を閉鎖していくということも示している。つまり第十四小学校については原則通りでいくと、（仮称）地区交流センターを複合化して建て替えるタイミングに合わせて小川東町地域センターと仲町公民館を閉鎖するということになるが、仲町公民館についてはななかまちテラスという複合施設で、特徴的な建物ということもあるので、原則通りにするのか、取扱いを変えるのかということについては、今後の基本計画策定の中で検討していきたいと考えている。

委員長：第十五小学校の児童数の推移について、一時期減少して、その後増加してそれからまた減少をする見込みであるということ、何かこの小学校区の特有の事情があるのか。

また、40 年後の他校との統合を見据え、今回は複合化をせずに単独で更新をするということだが、そうするとこういった形で 30 年間だけ使うために複合化しない投資をすることになり、より合理的な選択肢というのはないのか。例えば極端な例を出すと、建替えをせずに今の施設を予防保全で 40 年間もたせることが本当にできないのか。あるいは他の学校と統合する時期を 40 年後ではなくてももう少し前倒しをすることができないか。費用対効果の比較でいずれが合理的なのかという比較検証も必要なのではないかと思う。

教育総務課：第十五小学校の学区域には、面積的に広く、開発の余地が残っている小川町二丁目が入っており、今後の開発動向等を注視しながら分析していく必要はあると考えている。

更新の方法については、使用を想定する期間にふさわしい造りを経済的な観点も含め考えていく必要があると思っている。また、人口の増減によって統合の時期の前倒しもありうるのかというところについては、今の時点では想定を変えること自体はなかなか難しいと考えている。

公共施設マネジメント課：第十五小学校の更新の方法についてはやはり様々な課題があると考えており、何かアイデアや助言があればぜひいただきたい。予防保全については、今の躯体が健全であることが前提であり、それを延命化するために行うという考え方になるので、既に 50 年しかもたないという結果が出ている建物には今から保全をしても長寿命化ができない。統合時期の前倒しも、児童数が一定程度減少してからでない学校の規模が極端に大きくなってしまわないので、そういったことを考え合わせると、児童数が減少するまでの間、長く使うことも、建物の状況からできないということになる。そこで簡易な建物にするのか、あるいはリースのような形態なのか、あるいは 60 年使えるものを建てておいて、何かに転用するのか、あるいは民間に売却するのかなど、こういった形が合理的であるかということ、今考えているわけであるが、これについて

何か助言があればぜひお願いしたい。

委員：第十五小学校と北側の小川町二丁目地域センターの間には都市計画道路の予定があるが、その点は問題になるか。

教育総務課：都市計画道路の整備の進捗に伴い、ある程度の年数が進行すれば、付近の交通インフラ的な状態は大きく変わってくると思うので、そういった中で学校の地域のコミュニティとの結びつきがどうなっていくかという部分であるとか、あるいはその交通量の変化に伴って児童の安全を守るためにどういうところを配慮するのか、様々な意識する部分が出てくるということは今のところ想定している。

公共施設マネジメント課：第十五小学校については、非常に近接して地域センターと児童館の複合施設がある。都市計画道路が完成すると、道路を挟んで配置されるような形になるが、第十五小学校については今の案としては複合化せずに更新するというので、将来的に、現時点の想定では第十五小学校は第六小学校に統合する予定であるので、第六小学校に（仮称）地区交流センターを併設すると同時に小川町二丁目地域センターを廃止するという形が想定される。

委員：色々な案があって、比較検討の結果最適案としてこれを選んだというように説明してもらった方がわかりやすいと思う。一覧表などの形の方で表現した方が良いかと思う。

委員：学校の統廃合があった場合に、なくなる方の学校の校歌や児童の卒業記念制作などの歴史は新しい学校に引き継いで行かれるものなのか。

教育総務課：統合の話の説明に伺った鈴木小学校と第八小学校でも、やはりそういったところに配慮を要するべきだろうという意見をいただいた。物理的にどうしても引き継げないものもあるかとは思いますが、校名をどうするか、校歌をどうするか、あるいはキャラクターが作ってあったりしたらそれをどうするのか、そういったものを関係者がしっかりと納得する形で整理していかないと、最終的にはコミュニティの分断という一番良くない状況が起こり得ると思う。そういうことがないように行政が様々な形で配慮をして、皆さんと一緒に議論を進めていくべきところだと思う。

委員：自分の住んでいる地域でも学校の統廃合があったが、やはり地域住民が十分な時間をかけて建設的な話し合いができるように準備することが必要であると思う。学校の名前等検討事項は様々であるので、しっかりと時間をかけて検討してってもらいたいと思う。

委員長：第十五小学校の更新にあたって、少しコンパクト性を考慮の中に入れるといったような余地はあるのか。

財務担当部長：やはり学校として標準的に備えるべきものというのは自ずと決まってくる部分はあるかと思うが、コンパクトという意味では、他の施設との複合化はしないということでシンプルな建て替えを行うというところと、あとは建築方法であるとか、その後の活用方法などが考えられるようななるべく効率的な建て方ができればというところで、今後研究は引き続きしていきたいと考えている。

3（仮称）小川にぎわい広場(原案)について

資料2の概要を説明した。

委員：ワークショップ参加者の年代や職業はどういう状況であったか。

公共施設マネジメント課：年代別で、10代14人、20代3人、40代3人、50代8人、60代2人、70代9人、80代1人、不明3人で合わせて43人であった。10代が14人で多いが、小平第六小

学校に声かけをして興味のある6年生8人に参加していただいた。それ以外に中学生、高校生、近隣の職業能力開発総合大学校や武蔵野美術大学の学生に参加していただいている。また近隣の自治会、商店会、地域包括支援センター小川ホームや地元企業等にも声をかけ、参加していただいた。あとはこれから新しいビルの中にできる新公共施設への引越しを見据えて、小川西町公民館の事業企画委員会や友の会、図書館友の会、市民活動支援センターあすびあや男女共同参画センターひらくの登録団体等、今回のワークショップでは多様な方に参加いただきたいということで、声かけをして、実際にそれに応えていただき多くの方に参加いただいた。

委員長：にぎわい広場で想定するイベントは、昼間だけでなく、夜間も想定しているのか。

公共施設マネジメント課：今のところ、ここでどういうイベントを行うかということについてはまだ決まってはいるが、色々な楽しいイベントがあるといいなという声のほかに、すぐ近くに都営住宅があることも配慮してほしいという声もあるので、その辺のバランスも考えながらどのぐらいのイベントができるかということを考えていくようになるかと思っている。

委員：小川駅のそばに住んでいるので、よく小川駅を使う。学生の利用が多いので、朝方や夕方は非常に混み合っているが、逆に昼や土日はあまり人がいる環境ではない。今回の計画を考えるにあたって、例えば他市の同様の事例の視察や分析等は行っているのか。

公共施設マネジメント課：この近隣で視察に行った所としては、JR中央線の国分寺駅の北口がある。北口の再開発に伴ってロータリーの手前の所が広場状になっており、その部分をどういうコンセプトで整備をしたか、整備した後どんな使い方をしているかということについて聞きに行った。またJR中央線の武蔵境駅南口にある武蔵野プレイスという施設も、目の前の部分が広場状になっており、施設の視察と合わせて広場についても話を聞かせていただいた。

近隣の市民や、この場所を積極的に自分たちのコミュニティの場として使っていきたいなど、愛着を持って使っていきたいというような人達が一定数増えてきて、そういう中で何か楽しいことをしようとか活性化するようなことをしようということが生まれてくるようなことを、広場と再開発ビル4階5階の新公共施設と両方にまたがって考えていただけるような人達が増えていく中で、イベントなどができていくといいのかなと今は考えている。ただ、その辺もこれから考えていくということになり、来年度以降も機運を醸成しながら、何らかの企画もやっていきたいと考えている。

委員長：小川という地名に関連して、川や水に関するアイディアは何かあるのか。

公共施設マネジメント課：原案の中では水景施設などは入っていないが、先日の土曜日のワークショップで小学生の皆さんにもたくさん参加していただいた中で、そういった水のあるような施設、あるいは噴水のようなものとかそういうものがあるといいなという意見も複数寄せられていた。ある程度費用との兼ね合いもあり、何をどこまでということはまたこれから検討していくことになるが、何か実現できる場所がありそうか考えていきたい。

委員：自転車やベビーカーを置ける屋根付きの場所は作るのか。また、近所の子どもが遊びに来て自転車を置く場所や、通勤通学用の駐輪場は、商業施設の下やどこかに作るのか。

公共施設マネジメント課：駐輪場については、にぎわい広場単体で設置することは特に想定していないが、施設の地下部分や駅前の交通広場の地下に自転車駐車を整備する予定があるので、基本的にはそちらを利用してもらうようになるかと思っている。

4 中央エリアの整備に関するアンケートの結果について

資料3の概要を説明した。

委員長：資料3の2ページの、「設計事業者の提案について良くないと思う」の意見は具体的にどのような内容が多かったのか。

公共施設マネジメント課：現行の施設との比較ということでの意見が多くあった。特にホールの数ということに対する懸念が多く上がっていたと捉えている。現行は中央公民館にホールが一つ、福祉会館に市民ホールと小ホールという形で既存のエリア内には大きく三つのホールがあるが、設計事業者の提案の図面の中では、ホールという名称の大部屋が一つしかなかったため、そのような懸念になったものと受けとめている。実際にはシアタースタジオやメディアスタジオといったような別の名称で概ね同程度の規模の部屋を提案においても示しているため、このあたりについては今後具体的な設計の中でどのような形になっていくかということはあるが、理解いただけるような説明をしていきたいと考えている。一方で部屋の予約が取りにくい、つまり大きな部屋が少数あるよりも、ある程度の大きさの部屋が多数あった方がいいという意見もあったので、そのあたりのバランスをどうとっていくかということが課題であると思っており、引き続き意見を踏まえながら検討していきたいと考えている。

委員：今回のワークショップには、100名ぐらいが参加されたということであるが、これは一般公募や市の方からお願いしたりした人数で、大体このぐらいの方々が来てくれればよかったということか。

公共施設マネジメント課：こちらについてはワークショップではなくてオープンハウスである。資料3の1ページ目にはオープンハウスの概要を載せているが、オープンハウスはこれまでの検討の経緯や今回の設計事業者の提案などをお知らせするパネル展示のような形で実施しており、ワークショップのようなディスカッションをするものではなく、情報発信という形で実施している。

アンケートはオープンハウスの会場やウェブ、公共施設の窓口等において実施しており、そのアンケートに回答いただいた数の総数が129名であり、その結果を取りまとめたものが、資料3の2ページ以降になっている。

委員：オープンハウスの開催について自分は認識していなかったが、おそらく興味がある人は市報やホームページを随時チェックしていると思うが、そうでない人が多いのではないかと。やはり多くの市民の方々に参加してもらった方がいいと思うので、例えば一度登録すると、何かの度に開催の案内が来るようなことはできないか。

公共施設マネジメント課：市民に対する周知というのは非常に重要な課題だと捉えており、登録すると案内が届くというような提案をいただいたが、公共施設マネジメントの取組に限らず、市のLINEに登録いただいた方については市の方からプッシュ型で通知を行うということはして、今回のオープンハウス、アンケートについてもLINEの方でもお知らせをしている。そういった取組を行っていることをどうやって知っていただくかということは課題である。オープンハウスについては、広く市民に周知するとともに、近隣の住民については環境が変わるということもあるので、直接ポスティングを行った。引き続き効果的に皆様に情報が届くような方法を考えていきたいと思っている。

委員：全体的な話になるが、公共施設でもSDGsについて考えてもらいたい。例えば建物を壊した後の建材についてもただ地下に埋め立てるとするのは、これからの子どもたちのためにはあまり良くないと思う。民間は少しずつ色々な取組を始めていると思うので、公共施設においても再利用できる物を選んで、なるべく埋め立てにならないような工夫を行ってほしいと思う。

公共施設マネジメント課：現時点で具体的な回答はできないが、重要な視点であるということで受けとめたいと思う。

5 その他

委員：市の他の委員会等でも学校の屋外プールについて話題になっている。老朽化ということや、夏がだんだんと暑くなってきたことによる熱中症の問題から、今までのように夏期の屋外プールの利用がなかなか難しくなっているようである。市ではプールのあり方について検討を行っているようだが、情報共有をしながら検討を進めてもらいたい。

公共施設マネジメント課：プールの件については課題であると受けとめている。市では市営プールのあり方の検討を行っており、市の西側に萩山公園プール、東側に東部公園プールがあるが、老朽化が進んでいる市営プールをどうしていくかという検討と並行して、学校のプールをどうしていくかということを中心に内部的に検討している。公共施設マネジメント課としては、その方向性と足並みを揃えて取組を進めていくことになると考えている。

次回は令和4年12月19日に開催予定

6 閉会